

武家故實

貞丈著

夏

14
2478
94(3)



門 14
號 2478
卷 94(3)

复草

目錄

步射部

大的

小的

百手的

三的手

圓物

梭物

騎射部

三的手

羊的

圍的

奉射

草麻

方



流鏑馬

遠坐掛

小坐掛

大追物品

之く九

又ひた進

將攻費

牛追物

坐掛品

大追物

八的

年狭

又ひた進

追加

以上



夏草

伊勢平藏貞丈述

二的之事

一 大的草席圓物是と歩立の之物と流鏑馬坐の

大追物是と馬上の之物と

步射三部

大的

一本の之と之後の出来たり小的對して大的の
的場は長より一丈二寸三寸の之よりして二十枝の事
と之のより一丈後布草より幕のやと布と

鳥居はよく作る事おもひなりしを立此方前後の敷塚と
て砂を力削て中らく編み此敷のつくは塚とつくなり是か
後射子たつての所なり敷塚はつきや布卒は張中
法なり

一的も檜は薄くを後形細く徑五尺二寸の田うて紙で
張白く塗て三重小繪と出此より繪の輪を忍うなり
繪は物や法なり

一的半丸く削り白木を鳥居はるものつくは法なり
白黒浅黄は布此之條の綱と上と左右此三方に括するのと
をより一の此面之所せみとふれと松を削てなり其せ

一の端を的は裏へ貫て綱を括いつく一の半條せみ木の
板なり法なり

一の射子人数三番なり是も六人なり五番なりは十人なり故
人つて出て前後相ひとけり射子棟梁と弓太師といふ弓太
師此師と射落し人達人を撰て將軍家より被仰けり
射小橋する事四角は次は弓太師射大前出射色
弓太師此外も小射手といふ弓太師といふ名をもちきなり
此師といふ号なり是も弓太師といふ名をもちきなり

一の射子此立所四角として賞就此立所なりといふ二番なり
といは角を中一番は大前二は角の外三番は大前の中なり

前と之れ角の中一番は大後より四角と之れ一番は大後
より中一前より大前より同後と去後より中一番はま
いとせき前より同後とせき後より始と終とを嘗て
すもなり五番の時も是れ准し初より盤角より三人と
いふは射藝に達人なり

一 射平装束凡折えゆり水干葛袴を着ててさき
は太刀とこしちりあけとこし帯とさき白木はら
白強けがけとけとさき葛巾とさき羽とさき袴の矢と
ちり敷草と四の折ておきて的場よりさき
未的場よりさき内敷草と折ちりはいはれり
将

軍家射場殿へ出御せりと侍奉るまき居と座も中より
とより出御せりと射はれ各射場よりさき前後より
是敷草といはけ着座より事或は坐より折り座
は坐といふも甚極射法あり

一 相射出時より前後の射手兩人より敷草は射手
あはれこより水干は紐とわけて敷草とさき四の敷草を
前よりさき杖のさき水干は袖とわけてあはれさきと取
直しと射は射手よりたすやとやくまじきと
わてらたさきと杖のさきぬきと入て敷草とさき
と退き帰ると敷草は堅すき水干は紐とわけて

以下此禮法をたいふこと之たいふこと射拜如字之帶
佩如字ハ用ひてこと正事なり也

- 一 乙矢御免とて事なると三番まで中一層目此乙
矢を御免なり射る是弓太師より御免なり此射手は
此方より御免と申之弓太師其事と申之法なり
- 一 弓おき去るに強きれ引き其外より過りてこ
子とて矢如字なりちつ時をたいふこと法有
- 一 射終て後縁をのりて縁銀鈕之或沙衣或御鎧或
御扇をのりて事先例之
- 一 的此方後よりを敷て日記在此役人日記中見ゆ

射之日記此役人なりなりなり此役人は法なりといふ
なり役人中なり其なりなりなりなりなりなりなり
なりなりなり

- 一 夜射的ハ松明とて月夜夜もいふなりなりなりなり
人矢中とて中りなりなりなりなりなりなりなり

- 一 射手ついでに分副侍矢取此中間と名達は分副ハ弓矢
初此射も具足とて主人ハ酒ハ中法有矢取矢の
取様法有

以上正月御射場始之式法大略也
羊的

一 羊的と大的は半命して徑貳尺寸の大的と少くは徑
 惣肆尺的より徑壹尺寸の大的と本式は徑貳尺寸の大的
 射る

小的

一 小的を捨と丸く曲物にて徑壹尺貳寸より紙二三連り
 白く塗て三重に結と中次車大的の如くかこれにせ
 われは事一と云ふ事ありは是の如くは松垣と画
 くなり是大的の綾と云ふ組を射と心よりたると也
 的れよりに鬼れ事と書事如式に云ふ事あり射場
 ありは是の如くは射場と云ふ事あり射場

一 遠くは松の杖組一石定り立は方小の數塔明あり
 一 射手は人數不定度數も定り
 一 射手は装束折念はししすは常は事あり
 一 射標異なり事あり大的の如し
 一 小的はつちたは是の如くは小的と云ふ事あり

圍的

一 圍とは矢代なり矢代をやりて上者此射手下矢は射の
 相ととなり賭物と云して勝負あり也(圍的とは)
 也矢代は事や賭物に取極法有
 一 的小的なり壹尺貳寸の限は一尺より八九寸あり(す)

射場ハ山の同

射手此人数十人なり主人より数塚を二回つくり人数

計ハ二弓立中二弓立中といふなり或弓立といふ人

数と教切中も立て矢代ハ順ふまかせ二度中二度

中射とをいふなり

さう羽を打つ事申す中り矢をいさう羽をうけたりさ

う羽をうけといふ代此一年一人とう根れを目的と

てやう矢をとりを取直してさう中になしておたり

是中りたりとてさうなりさう射ハ亦様法有

射手此装束ハ的此如く常よりつら申す

一 園取必をたつ事ハ賭物を集事とて昔は

を持てまじり集事けりなり後取收り其詞強て相手

射中ぬとて何せぬ人等を持せり中なる人矢代と

申すも中りたる上矢代人矢代とて下矢代人等を持せり

的此をたねなりといふ事ハたねなり射ハ人数半射

一人ハ相のたね射ハなり是をたねといふたねハ矢

中とて二ツ中中とて矢代とて矢ハ二組ハ一ツ

ハれと其ま一ツなり其矢主者ハ中なりまじり

ハ見物ハ中ハ少なり射ハ中と有て年毎たてて射

ハ中ハ少なりとてやまといふ賭物ハ代とて

之所望する事は射りて賭物中より其優劣射
自賭を好む取らざる方の心をくわして射す
し取らぬ方といふ方にも相手たるは是も夫
代と組合せられて只ツウに是なり

百手の的

- 一 百手の的も大的なり是の下の射場は是れ小大的の如し
- 一 百手、神事祈禱たしむ所の常の射也
- 一 射手人数定り次第は六人十人十五人十七人なり
- 一 人数おぼゆるは二五五五五五射手なり射手は次
中て人数すくなくは是れ一五五五なり射手次第は矢代と

一 少りて是は若者も幼少りし方なり是れ是れなり
より直に事なり

一 射手は装束小にありたり常の如し

一 百手は矢数も二百筋なり是は百手の略義と百筋は
五十手なり

一 数塚は前の数本と異なり数塚は数本と異なり矢数と
は別なり

一 さいふの日記は事大的の如し日記書は是なり

奉射

奉射は是の如く梅や以下何れも大的の如し

一 奉射神社に参りたまふ祈禱かゝる神願を射す
的と射し神意を慰むる意

一 射すに人数五人之度よりあり

一 射すに装束百手此如

一 さいふより日記つくる事大的此如

二 的

一 二的といふ所の二つ所よりをて二つより五分五射之
大中小あり大は長さ八九寸より二寸方ありて大なるを
前中なるは後中なるは二如上よりあり

一 二的ありて矢代より賭物とありしして猪首山よりあり

的は大中小より賭物に取やる差別あり

右の二歩を此二的なり馬止の的はやうな事なり

草 席

一 草席は是れ草の葉より立たる席に射すまねて依り
たよりれなりされは是の草よりかき立てて之を多く是を
依らぬなり是を射すに將と仕草よりあり將と席
将なり

一 草席は的の席は形と依り是は形なり一席は長さ七
寸廣さ八寸首は長さ七寸五寸ありは長さ二寸五分ありと
以て依り白皮にて縫ひて中へ毛を入るなりありて是

を白くすす入山次すり登れ星七の矢印を此星とす
中印大星行もより四方すりまらり此星を四所の大す
かりを後此星を如く此星の裏面を射れ乳を付
大的の如くす組二筋乳不貫く的大事如四所小結有り
半の檜を丸く割て大的の事如くして黒く塗す
鹿の頭をまよ印よりすの如くす
草席の矢代をより賭物として勝負のすり折矢
の是も老功此射矢法は是の矢法法の仕極法なり折
矢として六中り矢落つるや一軍一軍をたすすなり

圓物

一 圓物を裏すこより一寸凡て白羊をぬい込み中
の毛を入すく深すり丸を二つ割たる如く滑り
やうに外悉く滑く白く中黒く次此繪をまてせすり
裏面乳を付る細を如く大的の如く事此の方小結有り
半大的の事如く黒くぬすり圓物をより上六寸の
如り圓物の事なり極極法有
一 何れも此遠きより一尺十寸は十寸の事とす
るなり何れもこの如く二枚り近一何れもす
と布草を張す
一 射手人数不定装束の如く

- 圓物は弓矢草席の同
- 圓物と矢代とあり、賭物とありて獨角の射なり
- 日記を射る日記と極法あり
- 圓物表高くありたるをれなり也、よす人中の射れ
と矢置ふ之を極なりつ、こ中、は矢をくさちなり
矢は法は草席の同、法有

あり

- あり、本武なる事なり、是も圓物なり也なり
- あり、的板極圓物、同、大小定なり、圓物なりち
いさすなり、勝の草席、乳二ツ身、細の好、よれ極草

此方、法つらなり、事、圓物の、く、地なり、さす、高く
あり

- あり、お遠きも圓物の同
- 射、人数、装束、圓物の同
- あり、く、よ、お、こ、り、儲、を、射、物、並、也、(矢中、通、る、物、を、ぬ
り、て、よ、れ、極、草、席、を、射、なり、其、卷、數、は、多、う、と、い、は、れ、は
つ、く、ま、り、結、造、し、て、さ、り、と、な、り、其、卷、の、と、は、數、なり
治、ふ、い、は、其、卷、數、は、多、う、り、賭、の、射、取、や、差、別、あり
是、も、矢、代、と、あり、て、上、矢、下、矢、の、射、を、と、り、て、相、手、と、ら
なり

一 日記ともつるなりなりは行軍

一 ありくは名野路に陸路を行く事あり

校物

一 校物も槍板と方四寸ふ切て厚或も斗せりうりは方
柘目通り端と真中へ表へんぬりたる割目と身を割目
分中へはあり名れありたる割割目より割てはる為
なり校中へ半は柘板法有

一 校物れりの首へは寸一尺七寸のまゝ七枚半なり

一 何よりともよの事とては能く中とするなりたる
へ何よりたるともよの事とては能く中とするなりたる

一 多筋なりともをりて能く中へせぬなり

一 弓ハ的射手のなり矢ハ一と一とあり

一 射手独射手に射手なりかゝりゆへに一と一とあり
射るなり

一 射手人数不定一人とも一とあり装束も各別なり

常如く人れり射るといふは所望はる時校物といふ
せて又すなり校物に何れも半は校て射るなり
物名なりとては校物と斗ひては半は校て射るなり
四寸とては薄折敷と十文字ふ切て立るなり板なり

一 四寸とては薄折敷と十文字ふ切て立るなり板なり

利目付の不及をぬきり是を式に按てお略せり主人被
物立より仰あつて式に按て立へし由平とまゝと作
りし薄折敷を四ツ折てまゝなり右に外を紙（たがひ）
とふとも立くわき射は紙（たがひ）と切やる中より
射手は常由二ツ三ツも懐中よりたみしれ射やり
まゝ筭皆扇地貝拾貝草本に花葉たるとまゝ
手射より扇を厂保して射るなり

以上歩立より射るなり

騎射の部

流鏑馬

一 流鏑馬は馬場二町なり馬と通は所は濰をわたり是
とさくはこととさくは本末の扇形なり是馬と陽次所
なりとさりれり手ぬがなり同馬にゆめちなりなり
五坊は事なむけれ所を准し知るし神事なむと
費とさくはなり是まゝは是を准しぬし
一的に所はまゝなり的一は八寸四方に板なり半は長二尺
五寸板厚四寸をひわりて二所留まりこれゆめなり
同しは次其大といは法有的と馬上と此あり三尺の的と
まゝ人との立れ役とて人数五人雜兵なりと持長は記
より是は鎌倉時代より射手と同侍は役なりと東

極まるの後にやきもの後成るなり

一 射手人数不定但十六騎十七騎あり先例あり

一 射手具足をやふの時射は装束とふ常は装束
とりもたれり水干をまは袖れとありやう左もかぬきか
手ひは流右袖口とらるる袴はすそのうをとり
手袋とまは流縞馬車鞆は事をい袋とよきやふ
さあはる袋は紐も苗やうに秘傳あり行騰とく神
事やあはる神事行騰とすき切やうやう腰刀
い言ふ及は太刀とく扇とく重藤は弓と持服
に証券とくやれ本乃縞矢三ツさくや有ひあ

とよとぬき入る者とくやいをまをふなり

一 射は終るに重臺人難危人南を六人あはるさく
人あは待騎馬とて数多ありやあはるさくは袋と指
やかり棋指と棋さくといふ同くといふとくは袋
と傘は次とて射は如頭あはるさくは如頭は役令
騎馬なり

一 射手弓取一馬と乗入て矢とぬきをひてた手綱と右
の扇とまはて笠れをとりは馬とて甲さくは馬と打入
さよの鞭と打時扇と投捨て鞭と打具と拾鞭扇とさ
鞭と打馳やうて候ふ三ツ此的とりやう若射外は

夫と如きと仰一たるはとらぬ中を以て的とつゝ割て通
るなり是も何なりと成る

一 やふふのよと流り武田やあつら山並急やあはれ之浦やふ
この早と世流名とつゝ不時矣れとてやふあかより有
なり

一 やふふの犬追物を掛り馬を馳るとき声を付けて呻
ふ事たとふ古傳より主人貴人おまをちと申て馬をふ
るふ声かけ次後人守たれとすすまきと古傳然書と
見たり

牛追物

一 牛追物も牛は字と射之本を馬場もつるを以て電
句の牛あり所を射之頼朝公は射の馬場と
定めらば一事東鑑より分たてては射より後前馬
場をうまて射らばとや

一 牛を追て射る様はさとりお筆て追たりおをれすけさる
主向ふ所を射之射極は弓平馬子おむちり以下犬
追物れとて矢所をひくはひれもより外そなし胸
中より射さる之牛追物変て後お大追物は成たり
さる者

遠笠を

一本唯是をとりし後の小笠を望来たるは小
 笠を對して遠笠をとりし小笠掛より遠笠を
 小笠をとりしは近きものなり遠笠掛といふは近
 笠掛といふは小笠掛といふは木笠掛といふは
 遠笠掛は馬場より馬を通る所は溝とあり其
 溝とくさりとあり長壺丁なり廣さ六尺二寸
 尺八寸深さ六寸なり或は上壺尺八寸深さ五寸
 寸なりさなり乃は張の秘傳ありさりの本あり扇
 形なり是と云ふ所なり法量なり馬場本は方なり馬
 場本は方なり一尺一尺二尺三尺なり馬なり

方小矢道は方なり矢道廣さ五尺五寸なり矢
 道は先は方なりとつくあつちれ遠さ五尺十寸なり
 廣さ高さは定り次的なり向ひは方なり馬は玉特なり
 作りは方なりとありとあり馬なりとありとあり矢道は
 口なりは方なりとあり一尺二寸なりとあり其形は
 高欄なりとありとありとありとあり
 一的に大サ徑壺八寸板を丸くして白皮を縫合
 又中の毛を入れて表と裏とを同く圓物なり
 八寸なりとありとありとありとありとありとあり
 とあり裏の所の草は乳を仔細とありとありの草は方なり

結付之的事は身在れしとて思くぬかりし上
すふをさしりさしり能く端より的を遠く九杖の
布草と云ふ之的也

射事此人教八十騎本或之十五騎二十騎も射事
射事此果定事折烏帽子直垂を射る此也
しつりむらむら此書をくしきをさし事なり
其直垂袖を吹く所といふ名目あり是山多と
也こまを鞭と持事なり供所の持事す
ま引目と鷹の引事なり引目といふ塗
所藤なり其に笠掛引目なり笠掛引目なり

きつり大追物に引目と云ふ事なり梅極は引目
能く大を引能く強弱なりて字を越し引目一ツ
沙汰持なり

射事不始と云ふ事なり射事つむも引矢と持事なり
馬場中より馬場前馬を馳せしり的を射す
也其をせといふ事なり此馬事此方此細道より兼
あり各順の馬と云ふ事なり何れも馬と云ふ事なり後
一番をせん事なり射事なり此後次第なり
今馬場を乗りしり此細道より乗出馬と次
射事小走りなり何れも立揃て後一番の馬と立たる人

麻形(番入)てきてより射入て的とより射中し習
い有事なり二番より下階用射する人馬場より
細道より寄せて修る馬と立揃ふなり板右射終
て馬場未下馬してむらさきとぬき馬馬場未
より馬場中より射中と引せて馬場中より
引上帰るなり引もれより引上と通して引たり
見物日記おれんきお的のむらさきと手は方者様
おれきと矢道の方に向てより乃方むらさき

笠掛品

一 神事笠掛神祭また祈禱をよそ信濃回諏訪

此祭より麻肉炙馬とを費して木枝と立て費
をとりなり外の神社の麻肉を不用を極法なり神
事よりむらさきとて旗に切紙の秘事なりする老若と
もおれむらさきとて其もをとりなり

一 百番笠掛と百番よりとよりなり

一 笠掛と賭物とよりして勝負よりなり矢込込は仕極
法者圍を行はれは名文となり神圍より進て極
法なり神圍とよりして相手を定てありて検見有
お矢なりハ矢込込

一 七夕笠掛七月七日射し七人七所の馬場より射色

一所七人欵

一 射流 笠掛といふは笠掛の名目より凡十度射
き笠掛といふ主人壹人若し九度迄ありぬいたらぬ我
も九度迄あたし時主人壹人十度目と申しぬらぬ我
然と射ふべしたるを射流と笠掛といふなり是の時
はよりて神義の如射するなり別は射流と笠掛とい
は式ありぬらぬ欵

一 遠笠掛といふは笠掛の苗名目より凡十日を以て
急ぐ時に前代やたる人於矢より取志す人の後の射手
馬場本一打る程に射之射手といふ間遠く馬場次

つちかき意より依て是は遠笠掛といふは遠笠掛といは
式ありぬらぬ欵

一 大笠掛といふは古書より有る大追物と笠掛といふ事と
なり詞とつめて一宗大笠掛といひたるは大笠掛別は法
式ありぬらぬ

小笠掛

一 小笠掛は古代秘事なり射流なりといふ人言ふなり
一 射り

一 小笠掛は馬場の遠笠掛の馬場を用之的の四寸板
の被物と云ふ此右のこゝに云ふより八寸餘り

一 一尺貳寸の弓物めいやう半枚拵やう法何れ
射手乃人数射具是市遠笠掛の目一矢の笠掛
とて之四寸山口目少射之也運馬場の射之
小笠掛も神事山よりあり

犬追物

一 犬追物此馬場相廣此馬場なり弓杖七十一枚四方なり
四方に竹垣をもちたり是と竹垣といはず外之も是
四方の木戸有浦濱をもちては竹垣をもち舟形網
を丸く引包して是をもち四所にいふをもちたり
是をもちいふをもち馬場乃真中小繩とて大廿壹

尺八寸まじりの二つなり此繩を輪めて是も小繩乃内弓
杖一枚の内此繩をもち其多ふ甲一丈の繩廿一尋輪
めて是なり是も小繩とて大繩とて是も大繩とて
いふはもち同きうとも是も其外の黄色此砂を敷め
るは是をけり是も是も是も是も是も是も是も是も
弓杖二枚なり

一 射手此人数世古騎なり是と二ツもはけ十二騎と上此手
とふ赤十三騎と中ぬよとふまは十三騎と下此手とふ
犬數百五十足なり一も是も是も是も是も是も是も是も引
るは河原此のちなり小繩の中へ大を引入て首繩

と切ては片名に教へ給者も中間に役なり大
引とは別なり

一 射手は装束と射の具足とを折忍びしすは
きて肩ぬき籠もと次大射のふと格をり下
の小袴をとりて進てむもをりく弓塗らふ所
藤をり引目と二ッ腰をさし一ッをり前添持り右
代を四ッとも胸をさしたり引目四ッと一腰とを打
射留ともを鞭と打馬を意り射具足とも次平
法者

一 検見は沒有装束に射手の中一但引目一鞭と持

かり是も馬上に射手は射極馬に扱ひ極法式も
いさうやうに不法候を見せり考中外地を記也なり

一 噴次は政に装束検見と同是も馬上なり日記は機
敷れ前のかうに馬といひて中や能矢は檢見其射
手は名と一達す所呼りも檢見は方江馬と意
射の石とまて馬なり也日記は機敷の前へ
をり向て射手は名と高らふ呼りも中馬の
意なり法者

一 日記は機敷敷の極小文巻の寺日記と異て
中や外地は日記の中や中や書なりとまて法者

ぬさうは後身は、横敷乃前ぬさうを以てわく、1次射
手は、名と解らむ時ぬさうとて、是とて、安なる徳、2次犬九
引即、3次繩の内十足繩の内廿足なると、呼ぶる斯の如く
呼ぶりて十足目廿足目、犬と放つる、是とわく、4次
しよ

射中、1次つゝ、2次十二騎、射は、3次柱す、4次きり、5次馬と、6次交繩
7次小馬と、8次互、9次差、10次て、11次馬手と、12次繩の、13次ま、14次む、15次けて、16次馬と、17次互、18次ら
19次小矢と、20次ま、21次けて、22次放、23次て、24次お、25次検、26次見、27次之、28次繩、29次ま、30次ら、31次横、32次敷、33次の、34次方、35次へ、36次向、37次て
38次馬と、39次互、40次ら、41次ゝ、42次折、43次犬、44次放、45次し、46次ぬ、47次の、48次先、49次達、50次て、51次小、52次繩、53次の、54次内、55次へ、56次犬、57次と
58次引、59次入、60次て、61次首、62次繩、63次を、64次扣、65次ら、66次ふ、67次ら、68次う、69次へ、70次ら、71次ら、72次ら、73次ら、74次ら、75次ら、76次ら、77次ら、78次ら、79次ら、80次ら、81次ら、82次ら、83次ら、84次ら、85次ら、86次ら、87次ら、88次ら、89次ら、90次ら、91次ら、92次ら、93次ら、94次ら、95次ら、96次ら、97次ら、98次ら、99次ら、100次ら、

犬、1次近、2次止、3次と、4次し、5次斯、6次れ、7次如、8次く、9次三、10次度、11次言、12次せ、13次て、14次後、15次檢、16次見、17次る、18次や、19次放、20次せ、21次し、
22次下、23次知、24次す、25次是、26次は、27次犬、28次放、29次し、30次れ、31次の、32次犬、33次と、34次放、35次つ、36次ら、37次初、38次最、39次初、40次の、41次放、42次つ、
43次犬、44次引、45次込、46次の、47次犬、48次と、49次て、50次射、51次る、52次法、53次を、54次ら、55次ね、56次ま、57次し、58次如、59次斯、60次と、61次二、62次足、63次目、64次に、
65次犬、66次と、67次其、68次繩、69次ま、70次ら、71次て、72次ぬ、73次の、74次是、75次と、76次繩、77次ま、78次ら、79次て、80次其、81次名、82次と、83次て、84次其、
85次と、86次其、87次本、88次式、89次と、90次て、91次檢、92次見、93次是、94次と、95次て、96次射、97次る、98次ら、99次は、100次け、101次は、
102次之、103次と、104次其、105次繩、106次と、107次を、108次聞、109次て、110次一、111次目、112次に、113次引、114次目、115次と、116次と、117次次、118次て、119次其、
120次馬、121次は、122次射、123次極、124次より、125次り、126次て、127次馬、128次は、129次扱、130次ひ、131次や、132次ら、133次ら、134次ら、135次ら、136次ら、137次ら、138次ら、139次ら、140次ら、141次ら、142次ら、143次ら、144次ら、145次ら、146次ら、147次ら、148次ら、149次ら、150次ら、
151次馬、152次は、153次扱、154次法、155次の、156次遠、157次ら、158次は、159次矢、160次所、161次と、162次と、163次射、164次る、165次ら、166次ら、167次ら、168次ら、169次ら、170次ら、171次ら、172次ら、173次ら、174次ら、175次ら、176次ら、177次ら、178次ら、179次ら、180次ら、
181次馬、182次は、183次扱、184次法、185次の、186次遠、187次ら、188次は、189次矢、190次所、191次と、192次と、193次射、194次る、195次ら、196次ら、197次ら、198次ら、199次ら、200次ら、
201次馬、202次は、203次扱、204次法、205次の、206次遠、207次ら、208次は、209次矢、210次所、211次と、212次と、213次射、214次る、215次ら、216次ら、217次ら、218次ら、219次ら、220次ら、
221次馬、222次は、223次扱、224次法、225次の、226次遠、227次ら、228次は、229次矢、230次所、231次と、232次と、233次射、234次る、235次ら、236次ら、237次ら、238次ら、239次ら、240次ら、
241次馬、242次は、243次扱、244次法、245次の、246次遠、247次ら、248次は、249次矢、250次所、251次と、252次と、253次射、254次る、255次ら、256次ら、257次ら、258次ら、259次ら、260次ら、
261次馬、262次は、263次扱、264次法、265次の、266次遠、267次ら、268次は、269次矢、270次所、271次と、272次と、273次射、274次る、275次ら、276次ら、277次ら、278次ら、279次ら、280次ら、
281次馬、282次は、283次扱、284次法、285次の、286次遠、287次ら、288次は、289次矢、290次所、291次と、292次と、293次射、294次る、295次ら、296次ら、297次ら、298次ら、299次ら、300次ら、
301次馬、302次は、303次扱、304次法、305次の、306次遠、307次ら、308次は、309次矢、310次所、311次と、312次と、313次射、314次る、315次ら、316次ら、317次ら、318次ら、319次ら、320次ら、
321次馬、322次は、323次扱、324次法、325次の、326次遠、327次ら、328次は、329次矢、330次所、331次と、332次と、333次射、334次る、335次ら、336次ら、337次ら、338次ら、339次ら、340次ら、
341次馬、342次は、343次扱、344次法、345次の、346次遠、347次ら、348次は、349次矢、350次所、351次と、352次と、353次射、354次る、355次ら、356次ら、357次ら、358次ら、359次ら、360次ら、
361次馬、362次は、363次扱、364次法、365次の、366次遠、367次ら、368次は、369次矢、370次所、371次と、372次と、373次射、374次る、375次ら、376次ら、377次ら、378次ら、379次ら、380次ら、
381次馬、382次は、383次扱、384次法、385次の、386次遠、387次ら、388次は、389次矢、390次所、391次と、392次と、393次射、394次る、395次ら、396次ら、397次ら、398次ら、399次ら、400次ら、
401次馬、402次は、403次扱、404次法、405次の、406次遠、407次ら、408次は、409次矢、410次所、411次と、412次と、413次射、414次る、415次ら、416次ら、417次ら、418次ら、419次ら、420次ら、
421次馬、422次は、423次扱、424次法、425次の、426次遠、427次ら、428次は、429次矢、430次所、431次と、432次と、433次射、434次る、435次ら、436次ら、437次ら、438次ら、439次ら、440次ら、
441次馬、442次は、443次扱、444次法、445次の、446次遠、447次ら、448次は、449次矢、450次所、451次と、452次と、453次射、454次る、455次ら、456次ら、457次ら、458次ら、459次ら、460次ら、
461次馬、462次は、463次扱、464次法、465次の、466次遠、467次ら、468次は、469次矢、470次所、471次と、472次と、473次射、474次る、475次ら、476次ら、477次ら、478次ら、479次ら、480次ら、
481次馬、482次は、483次扱、484次法、485次の、486次遠、487次ら、488次は、489次矢、490次所、491次と、492次と、493次射、494次る、495次ら、496次ら、497次ら、498次ら、499次ら、500次ら、
501次馬、502次は、503次扱、504次法、505次の、506次遠、507次ら、508次は、509次矢、510次所、511次と、512次と、513次射、514次る、515次ら、516次ら、517次ら、518次ら、519次ら、520次ら、
521次馬、522次は、523次扱、524次法、525次の、526次遠、527次ら、528次は、529次矢、530次所、531次と、532次と、533次射、534次る、535次ら、536次ら、537次ら、538次ら、539次ら、540次ら、
541次馬、542次は、543次扱、544次法、545次の、546次遠、547次ら、548次は、549次矢、550次所、551次と、552次と、553次射、554次る、555次ら、556次ら、557次ら、558次ら、559次ら、560次ら、
561次馬、562次は、563次扱、564次法、565次の、566次遠、567次ら、568次は、569次矢、570次所、571次と、572次と、573次射、574次る、575次ら、576次ら、577次ら、578次ら、579次ら、580次ら、
581次馬、582次は、583次扱、584次法、585次の、586次遠、587次ら、588次は、589次矢、590次所、591次と、592次と、593次射、594次る、595次ら、596次ら、597次ら、598次ら、599次ら、600次ら、
601次馬、602次は、603次扱、604次法、605次の、606次遠、607次ら、608次は、609次矢、610次所、611次と、612次と、613次射、614次る、615次ら、616次ら、617次ら、618次ら、619次ら、620次ら、
621次馬、622次は、623次扱、624次法、625次の、626次遠、627次ら、628次は、629次矢、630次所、631次と、632次と、633次射、634次る、635次ら、636次ら、637次ら、638次ら、639次ら、640次ら、
641次馬、642次は、643次扱、644次法、645次の、646次遠、647次ら、648次は、649次矢、650次所、651次と、652次と、653次射、654次る、655次ら、656次ら、657次ら、658次ら、659次ら、660次ら、
661次馬、662次は、663次扱、664次法、665次の、666次遠、667次ら、668次は、669次矢、670次所、671次と、672次と、673次射、674次る、675次ら、676次ら、677次ら、678次ら、679次ら、680次ら、
681次馬、682次は、683次扱、684次法、685次の、686次遠、687次ら、688次は、689次矢、690次所、691次と、692次と、693次射、694次る、695次ら、696次ら、697次ら、698次ら、699次ら、700次ら、
701次馬、702次は、703次扱、704次法、705次の、706次遠、707次ら、708次は、709次矢、710次所、711次と、712次と、713次射、714次る、715次ら、716次ら、717次ら、718次ら、719次ら、720次ら、
721次馬、722次は、723次扱、724次法、725次の、726次遠、727次ら、728次は、729次矢、730次所、731次と、732次と、733次射、734次る、735次ら、736次ら、737次ら、738次ら、739次ら、740次ら、
741次馬、742次は、743次扱、744次法、745次の、746次遠、747次ら、748次は、749次矢、750次所、751次と、752次と、753次射、754次る、755次ら、756次ら、757次ら、758次ら、759次ら、760次ら、
761次馬、762次は、763次扱、764次法、765次の、766次遠、767次ら、768次は、769次矢、770次所、771次と、772次と、773次射、774次る、775次ら、776次ら、777次ら、778次ら、779次ら、780次ら、
781次馬、782次は、783次扱、784次法、785次の、786次遠、787次ら、788次は、789次矢、790次所、791次と、792次と、793次射、794次る、795次ら、796次ら、797次ら、798次ら、799次ら、800次ら、
801次馬、802次は、803次扱、804次法、805次の、806次遠、807次ら、808次は、809次矢、810次所、811次と、812次と、813次射、814次る、815次ら、816次ら、817次ら、818次ら、819次ら、820次ら、
821次馬、822次は、823次扱、824次法、825次の、826次遠、827次ら、828次は、829次矢、830次所、831次と、832次と、833次射、834次る、835次ら、836次ら、837次ら、838次ら、839次ら、840次ら、
841次馬、842次は、843次扱、844次法、845次の、846次遠、847次ら、848次は、849次矢、850次所、851次と、852次と、853次射、854次る、855次ら、856次ら、857次ら、858次ら、859次ら、860次ら、
861次馬、862次は、863次扱、864次法、865次の、866次遠、867次ら、868次は、869次矢、870次所、871次と、872次と、873次射、874次る、875次ら、876次ら、877次ら、878次ら、879次ら、880次ら、
881次馬、882次は、883次扱、884次法、885次の、886次遠、887次ら、888次は、889次矢、890次所、891次と、892次と、893次射、894次る、895次ら、896次ら、897次ら、898次ら、899次ら、900次ら、
901次馬、902次は、903次扱、904次法、905次の、906次遠、907次ら、908次は、909次矢、910次所、911次と、912次と、913次射、914次る、915次ら、916次ら、917次ら、918次ら、919次ら、920次ら、
921次馬、

く通うは名不と名之矢所をわすれず之檢見
是と名付て矢所の名も相違するれ繩際馬と
おぼしては次射平乃名と申達するは呼次射は
其の名を呼りぬさや日記申すと自ら申前
記をこくまは射中よりけ進を射かりと記
と名をては射と二日月と腰よりぬき取す
射之時時射極をけ進を前記す如く扱す
けよりきられ外へつ進は射平つ進も馬場中と
申して射之射中へけ進を前記す
時馬の扱中へつ繩を外へけ進を外れ大と外の矢

と名之外の矢乃時矢所と回すけ進を弓より馬
と名をふ弓より馬手切も射たる通名と名
申れ事も前記繩さの矢中准して名へ能はたり
矢の進は其大と大引れ者竹垣の外へ進ま外と
進つ射遠くと進し大若射さ大の側へりを
射たり進して大進物大と矢と射中を斗り中
申すは次射極法或は遠く射て後馬れ扱ひ法も
は矢所の答法も遠くを中とす大と矢射
付りも其外は事一つも法も遠く申すはせぬ
扱見は法武も遠くや遠くは見えなく扱なり

一 射手大と射る時矢呼びとす之雅も矢呼びする
たり大追物の矢さけいと得の時さちり上古も矢
呼びと云たると後世も矢答といひ習たりと古傳書
見たり矢答は仕振法なり

犬追物品

一 神事大追物神祭祈禱をふ射り是もさあ
さ御れ神事の如く贊を掛りたりにこれ御振法有
一 御手組れ大追物と公方様被遊時の大追物といふ
一 白みまれ大追物といふ射手は射様立振廻を一段と
まひくはしやれりまきも用候せは法式と

と常よりも嚴重の事をいふ大初れ大追物といふ三月
始て大と射る馬場始の大追物と馬場といふた
る時といふなり

一 勝負は犬追物といふ時大追物と上下は勝負とて取組
の勝負二足勝負七足勝負をいふ品なりといふも賭
物といひて勝負すは勝負の大追物といふ二騎は検見
有内は検見外の検見といふなり

八的 二と九 手校 二ひた進 口まほせ

一 小室原備前守持長は時記さ進し流瀧馬の次なり
流瀧馬傳くくし作身も進て二的と先ありすといふ
貞犬 四三的

流編馬如事解りなる物如事之九八的自校ひたき口には
ナリ是れ皆佐物之別日記有りと見らる在れ
傳書之傳は所断して一向く是れ小笠原播磨
守元長流編馬日記如く小歩立は獲物のこと或
ハ貝木此葉は半由とみて立たる繪圖有りて其
已書もナリ是も手校に画必詳なる所如く
志道きると其伝志は深し是れ根りは推量此
説を以て新伝ナリとす事甚忍し

狩次

狩といふは鹿狩也事ハ鹿外ハ何狩と具狩物
名とて是ナリ鹿を射る事ハ山に居る鹿
鹿は道ノ道ハ垣を以て其けりかく是て鹿は
をナリナリ其垣と志すは是れ也其
垣を立てるを志すは是れ也是も歩立を射
射は名ナリ馬上に待ておるを久ひくは是れ也
ハ馬上にかく是れ時ハ垣は名ナリ

一 狩とすは是れ地を以てかきとすナリ
狩ハ射人數不定射もとナリ人として其装束と
装束として狩は小ハ常ハ小ハ直ハ禰ハ左
袖と小ハ如く縫たナリ元ハ此ハハ也

をまわしむらひき寄るとも物やたふいと有りてはらぬ
ア弓矢のうりまゝを矢おたり一具やけり鞭を腕
まねき入るなり。

一 裂引して二十人一人一人をせとつきて将々次々
是も弓と括たり

一 山に登ると人揃ひ所をわたりとふ所所を
山中と名をけり事者一番は柴とて射手達へ一ツ
宛まらすてまを自とも物二番は白米と紙の
之持て廻りせつてさふたり是と手くま
よこ山神(ま)らる事者三番はとよたり是も

山神(系)ら射手(ま)らるなり

一 将も物詞と覺ゆ(ま)たり物やたふいと有りてはらぬ
物詞とてなり

一 始てより水々たる人獲物やたふいと有りてはらぬ
射手達(ま)らる事者一番は柴とて射手達へ一ツ
宛まらすてまを自とも物二番は白米と紙の
之持て廻りせつてさふたり是と手くま

席に射るけり矢のひをすは是と矢答とては矢答
の仕振法あり

一 席の射振さあき習ひなり

一 狩を擧りて山に入ると射を以て次第に極むの作法は後
代其作法たるに知人たりとあり斗傳書に見ゆり
以上馬とて射の形也

右の記法所を古代に專世の行連公私ともに普く既し射
務の形外に何ものなり然るを近世にありて古代に及ぶも
聞えぬ事甚多し夫の皆後世に人伝に傳へたるものなり
故實方と曾て用ひし事あり故實も知らぬ者の
業方とて取上て論を以て取らる

戊戌卯月五日

追加

享保此比より騎射上代三物といひ上馬は賭射各日古、射射の別れありあり
徳翰突たりと有是古其比將軍家依りて強ひ
御佐物之昔頼朝の色くは佐物の傷を去るを以て此
事也是の古代たりとあり馬の意もあつて
を便りて其益多し殊に武家此棟梁たる將軍
家依りて強ひておはし是を去けの事なり此も
誰れ作き尊もさるべきは後代の規模なりと然るに
正世より馬の師範諸禮者なりとあり武家此棟
梁もなりぬ地下の身として古代も軍に佐物を
自新依りて古より方兼一極ありてなり示古

有来りし一歩射騎射其名目如志月て其法式と
去る頃櫻り小新作して其門才一馳き教の世の人
まゝ是を信次憎思く教く言事やてこれ等
宗前小記た道ととも猶あうはして宗よ記然と

夏草

畢

